

早産及び低出生体重児のファミリーケアマップ導入とその効果

キーワード：早産児・ファミリーケア・ファミリーケアマップ

1 病棟 4 階東

仲田幸恵 三好雅代 千々松和代 牧野良恵 池田幸代 宇多川文字

I. はじめに

早産児をもつ両親のほとんどは、出生したわが子がどのような治療やケアを受けるのか、また退院までの経過や退院時のイメージができない状態である。実際に「いつ頃からミルクが飲めるようになりますか」とか「どうなったら保育器から出られるようになりますか」という質問を度々受ける。鈴木ら¹⁾はいつごろ経口哺乳を開始して、どの段階でコットに出られるなどの予定がはっきり示されることにより、両親が安心して育児に参加できると報告している。そこで両親が児の経過とケアの予定を把握できるようにファミリーケアマップ「赤ちゃんの入院生活予定表」を導入し、その効果を知るためにアンケート調査を行ったのでここに報告する。

用語の定義

ファミリーケアマップ：児の成長と経過を横軸にし、入院から退院までの流れをわかりやすくした表である。

すくすく日記：両親と受け持ち看護師が行う交換日記で、児の日々の体重やミルク量、面会時以外の児の写真を掲載して様子を記入するものである。

II. 方法

1. 対象

当 NICU に入院した早産児（在胎 30 週前後）で低出生体重児をもつ両親 25 名
但し以下の児の両親は除外する。

- ・先天性疾患を有する児
- ・重症感染症に罹患している児

2. 期間：2008 年 5 月～11 月

3. 方法

1) ファミリーケアマップ作成

他施設で使用しているファミリーケアマップを参考にして当 NICU 独自のファミリーケアマップ「赤ちゃんの入院生活予定表」を作成した。（図 1）

2) ファミリーケアマップの使用

母親の退院を目安に、研究メンバーがファミリーケアマップを使用して両親へ児の入院中の経過の目安とケア内容を説明した。

3) アンケート調査

ファミリーケアマップ導入前の両親 15 名、導入後の両親 10 名に独自に作成した質問用紙とファミリーケアマップを同封して渡した。ファミリーケアマップ導入前の両親は児が退院後であったため返信用封筒を同封し郵送した。

双方ともにアンケート内容は①ファミリーケアマップの効果、②ファミリーケアマップを渡す時期、③ファミリーケアマップの内容について問うものである。効果

と渡す時期については選択式、内容については自由記載の質問用紙とした。自由記載の集計はカテゴリー別に分類した。

4. 倫理的配慮

アンケート回答者には、研究目的、自由意志での協力、途中中断の権利の保障とそのことによる不利益の回避、また、個人情報保護の徹底を口頭と文書で説明した。ファミリーケアマップ導入前の両親には、入院中の経過やケア内容はその都度口頭で説明することとし、ファミリーケアマップを渡さないことによる不利益が生じないことを説明した。

III. アンケート結果

アンケート回収率はファミリーケアマップ導入前の両親が 60% (9 名)、導入後の両親が 50% (5 名) であった。

回答者の背景は、20 歳未満が 2 名、20 代が 7 名、30 代が 5 名であり、初産婦が 8 名、経産婦が 6 名であった。

1. ファミリーケアマップの効果について

赤ちゃんの入院中にこの表があったら役に立つと思うかという問いに、導入前後ともに回答者全員が「役に立つと思う」と回答した。その理由としては、入院から退院までの流れがわかるが 5 名、不安が軽減されると思うが 4 名、毎日どのような生活を送っているかわかるが 4 名、治療との関係が把握しやすいが 2 名、退院の準備がしやすいが 1 名、自分たちにできることがわかるが 1 名であった。

2. ファミリーケアマップを渡す時期について

1) ファミリーケアマップ導入前の両親

受け取る時期はいつごろがよいと思うかという問いに、出生前が 1 名、赤ちゃんの入院後すぐが 3 名、母親の初回面会時が 4 名、母親の退院前が 1 名、出生前もしくは赤ちゃんの入院後すぐが 3 名、母親が入院中の面会時が 1 名であった。

2) ファミリーケアマップ導入後の両親

実際にいつ頃受け取ったかという問いに、出生前が 0 名、赤ちゃんの入院後すぐが 0 名、母親の初回面会時が 1 名、母親の退院前が 1 名、赤ちゃんの入院後 2~3 週間してが 2 名、覚えていないが 1 名であった。

このうち受け取った時期はどうだったかという問いに、母親の初回面会時と母親の退院前に受け取った 2 名はちょうどよかった、赤ちゃんの入院後 2~3 週間で受け取った 2 名は、遅すぎたため赤ちゃんの入院後すぐに受け取りたかったと回答した。

3. ファミリーケアマップの内容について

わかりにくかった表現については「コット」が 6 名、「カンガルーケア」が 9 名であった。

清潔についての項目の「生まれたばかりなのでそのまま」という表現は「どのまま？」と考えてしまったのでもう少し具体的だといいかも知れないという意見と、もう少し詳しく表記してほしいという意見があった。

他にどのような情報があればいいと思うかという問いにはミルクの時間を書いてほしい、どのくらい体重が増えて、どのくらいミルクの量を飲むようになったのか教えてほしい、面会時間を記入してほしい、目安でも良いのでどのくらいになったら退院できそうか

のせてほしい、薬のことをいれてほしいなどの意見があった。

その他の意見・感想は、横軸が時間の経過である事を示せたらもっと見やすくなると思う、「表をみてわからないことがあれば何でもお聞きください」のような一文があると思う、初めてのことだったのであらかじめこのような入院生活予定表があると、こんなことをすればいいのか、こんな感じで退院できるのかなど見通しができるのでいいことだと思う、NICUにいた時にこのような表があったら大変助かったと思うとの回答があった。

IV. 考察

1. ファミリーケアマップの効果について

ファミリーケアマップ導入前後ともにアンケート回答者全員が「役に立つと思う」と回答した。両親に児の経過とケアの予定を説明する時、視覚的な媒体があることでよりイメージが具体的になり、不安の軽減につなげることができたのではないかと考える。ただ、児の成長の過程は様々であり、この表のとおりに進まず、時間軸が延長するケースもある。側島²⁾は未熟児が成熟して退院し、通常の日常生活が送れるようにするためには、きわめて多くの要素が影響し合っていることに気づかされると言っている。これらのことから、この表を渡すことで、かえって両親が不安や焦りを感じることも考えられる。そのため、この表は目安であり、児一人ひとりのペースがあることを十分に説明する必要があると考える。

2. ファミリーケアマップを渡す時期について

児の入院後すぐ、あるいは母親の初回面会時がよいという回答が 11 名あった。一方で導入後の両親からは「児の入院後 2~3 週間で遅すぎた」という回答が 2 名あった。母児ともに生まれてすぐは状態が落ち着いていないことがあるため、児の入院後 1 週間程度を目安に母児の状態が落ち着いて渡すのがよいのではないかと考える。渡す時期については、様々なケースが考えられるため、今後も継続して検討していく必要がある。

3. ファミリーケアマップの内容について

わかりにくかった表現については、「コット」や「カンガルーケア」の用語がわからないという回答が 15 名と多かった。これらは専門用語であるため「コット」は「新生児用ベッド」とわかりやすい用語に変更し、「カンガルーケア」は、表の説明時にケア内容を紹介し、対象児には説明用のDVDやリーフレットがあることも紹介していくことが必要である。

「表の横軸が時間軸であることを示せたらいいのでは」という回答に関しては、表の上部に「誕生」と「退院」をつけ加えると横軸が時間軸だとわかりやすくなるのではないかと考える。「分からないことがあれば何でもお聞き下さいのような一文があるとすごくよいと思う」という回答があったことから、この一文を付け加えることにより、ファミリーケアマップの説明後も両親が質問しやすくなるのではないかと考える。そのほかの、清潔についての「生まれたばかりなのでそのままとはどのままなのかわかりにくい」という回答に関しては、この表現を「生まれたばかりは皮膚が弱いからそのままそっとしておく」と明確な表現にする必要があると考える。「目安でもよいのでどのくらいになったら退院できそうか入れてほしい」については、入院時に渡す入院診療計画書を活用して、退院の目安を主治医から説明してもらう事も必要だと考える。「主に使われている薬のことを入れてほしい」の回答に関しては、薬について説明が行き届いてないことが予測され、点滴や内

服薬があるときには両親の要望に添った説明をしていく必要がある。

今回の研究期間においてはファミリーケアマップの説明を行った後、自宅に持ち帰ってもらったが、今後は病棟にも表を置いておき、受け持ちの看護師を中心に両親の面会時に、現在の児の成長の段階を示したり、次のステップに進んだときなどファミリーケアマップを使って説明するとより有効に活用できるのではないかと考える。また、アンケートの回答に「どのくらい体重が増えて、どのくらいミルクの量を飲むようになったかを加えて欲しい」という意見があったことにより、従来使用しているすくすく日記にこの表を入れ、現在の児の成長段階を両親と共有していくとさらに有効ではないかと考える。

尚、今回のアンケート調査では、ファミリーケアマップ導入後のアンケート回収率が50%と少なかったため、今後も両親の意見を取り入れながら導入を進めていきたい。

V. まとめ

1. ファミリーケアマップ「赤ちゃんの入院生活予定表」導入後の効果をアンケート調査した。
2. ファミリーケアマップ導入は、両親が児の経過とケアの予定を把握でき効果的であった。
3. ファミリーケアマップを渡す時期は児の入院後1週間程度を目安とし、母児の状態が落ち着いてから渡す。

引用・参考文献

- 1) 鈴木宏, 君島清美: クリニカルパス実践編, *Neonatal Care*, 17(9), 886-52, 2004.
- 2) 側島久則: 「なぜ、いまクリニカルパス」なのか, *Neonatal Care*, 16(2), 100-4, 2003.
- 3) 錦織美穂, 田川真由子, 田中孝子ら他: 疾患にとらわれないパスの可能性「ファミリーケア」, *Neonatal Care*. 17(9), 878-52, 2004.
- 4) 加部一彦: クリニカルパス誕生の経緯とこれから, *Neonatal Care*. 16(2), 129-33, 2003.

赤ちゃんの入院生活予定表 (受け持ち看護師)

| | |
|-----------------|--|
| 経過 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育器の中で過ごします。 ・心拍や呼吸状態を調べるモニターがついています。 ・点滴中です。 ・呼吸器がついています。 ・保育器内に酸素を流しています。 ・色々な検査を受けます。  <ul style="list-style-type: none"> ・保育器の温度を徐々に下げます。 ・コットに出ます。 ・点滴がとれました。 ・呼吸器がはずれました。 ・酸素中止です。 ・退院の前の検査を受けます。 |
| 清潔 | <ul style="list-style-type: none"> ・生まれたばかりのときは皮膚がまだ弱く拭きます。 ・温かい綿花で全身をやさしく拭きます。 ・保育器の中や側で沐浴することもあります。 ・沐浴槽で沐浴します。  |
| 栄養 | <ul style="list-style-type: none"> ・点滴をしています。 ・お口やお鼻のチューブからミルクを飲みます。 ・お口からミルクを飲む練習をします。 ・お鼻のチューブがとれます。 ・哺乳瓶で上手に飲みます。 ・ママやパパからミルクを飲ませていただきます。 ・ママのおっぱいを直接飲みます。   |
| お母さん・お父さんにできること | <ul style="list-style-type: none"> ・タッチング ・ママやパパの手でそっと包むように触ってあげてください。 ・カンガルーケア ・保育器の外で抱っこができます。 ・育児の練習をしましょう。 ・オムツ交換 ・瓶授乳 ・母乳 ・沐浴 ・声かけ ・優しい声をいっぱい聞かせてあげてください。 ・ママやパパの声はおなかの中でも聞いていますよ。 ・母乳を届けてください。 ・退院後の生活についてよく話し合いましょう。    |

*あくまでもめやすです。看護師にご相談ください。病状や医師の治療方針により変更します。山口大学医学部附属病院NICU

図1 ファミリーケアマップ「赤ちゃんの入院生活予定表」